

平成 30 年 2 月 21 日

朝 日 信 用 金 庫

## RPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）による業務効率化試行開始について

朝日信用金庫（理事長 橋本 宏）は、日本ユニシス株式会社（代表取締役社長 平岡 昭良）、エス・アンド・アイ株式会社（代表取締役社長 藤田 和夫）の支援により、業務効率化・生産性の向上に向けた取組みとして、平成 30 年 1 月より RPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）の試行を開始しました。

当金庫では、平成 29 年 11 月より事務センター内の事務管理部門を中心に、適用業務の洗い出しを実施。平成 30 年 3 月まで定例業務の自動実行等を試行し効果検証を行います。平成 30 年 4 月からは、本部組織を横断した「RPA 推進プロジェクト」を立ち上げ、本部全体の推進体制を整備し全部署へ展開してまいります。

具体的な取組みとして、営業店の事務処理水準を計量化する目的で作成している「事務向上管理指標」の作成業務を RPA 化しました。同指標は、17 のカテゴリ別に営業店実績を集計して総合得点を公表し、業績評価に反映しているものです。月間、担当者 2 名がのべ約 20 時間をかけて作成・検証していた作業の内、75%に相当する 15 時間分の作業を RPA 化しました。次のフェーズでは、複雑な作業の実行指示や条件判定、後続処理の実行判定等に、IBM Watson を連携することを予定しております。

当金庫は、平成 29 年 7 月に IBM Watson を活用した金庫内の「事務問い合わせ支援システム」を稼働しており、IBM Watson と RPA との連携を踏まえて、業務効率化・生産性の向上を図る取り組みとしては、信用金庫業界初となります。この取り組みにより、業務プロセスをより一層自動化し、職員をより高度な業務に集中させることで、効率性や収益性を重視した、持続的成長可能なビジネスモデルの構築を行い、「地域で最も信頼され、地域になくてはならない金融機関」を目指します。

試行する RPA は、「Verint RPA」ソリューション（米国に本社を置くベリントシステムズジャパン）を採用しました。「Verint RPA」は、完全自動化に加え部分自動化の選択が可能で、既存システムの改修が不要であり、豊富な機能から提供業務範囲が広いことが特徴。デスクトップ&業務プロセス分析（Verint DPA）を使用して、事務担当者のパソコンの入力作業を可視化することができ、自動化すべき業務を把握することが可能です。導入後の投資利益率（ROI）の効果測定も可能になり、業務効率化への PDCA サイクルに利用できる点も強みとなっています。

日本ユニシス株式会社グループ企業のエス・アンド・アイ株式会社は、IBM パートナー企業で Watson ビジネスに定評がありかつ、RPA に関する知見も高いことから、IBM Watson と Verint RPA の両サービスをワンストップでサポートできる点も考慮してパートナーとして選定しました。

以 上